

1. (Gno.1) 米国刑事法の動向の研究 (米国刑事法研究会)

代表：堤 和通

1976/06/11 (承認) 1976 年度 (開始)

【研究の目的】

1 年間のアメリカ合衆国最高裁判所の刑事判例のすべてをできるだけ正確かつ、迅速に紹介することを目的とする。過去の判例との関連を意識しつつ、具さに「動向」をわが国の読者に伝達できれば、有益であり、更にわが国法運用との比較が出来ればより望ましい。更に、米連邦議会の制定した主たる刑事法とアメリカ最高裁判所の制定する新たな刑事訴訟規則の改廃等の紹介も予定している。

【研究活動及び成果】

総括

アメリカ合衆国最高裁判所の刑事裁判例の調査研究を行った。裁判例の紹介解説を行う報告に基づいて研究会で検討を加えた。そのうちの一部を比較法雑誌の「海外法律事情」に掲載した。

学術雑誌

- 中村真利子 「Joes v. Mississippi, 593 U.S. __ (2021) (アメリカ刑事法の調査研究 (171))」『比較法雑誌』56 巻 1 号 171 頁 (2022 年)
- 三明翔 「Torres v. Madrid, 141 S. Ct. 989 (2021)」『比較法雑誌』56 巻 2 号 281 頁 (2022 年)
- 柳川重規 「Hernandez v. Mesa, 589 U.S. __ (2020)」『比較法雑誌』56 巻 3 号 191 頁 (2022 年)
- 川澄真樹 「FBI v. Fazaga, 595 U.S. __ (2022)」『比較法雑誌』56 巻 4 号 157 頁 (2023 年)

口頭発表

第 1 回 (7 月 30 日、オンライン)

吉田有希 Hemphill v. New York, 595 U.S. __ (2022)

堤和通 Gundy v. United States, 588 U.S. __ (2019)

第 2 回 (9 月 24 日、オンライン)

川澄真樹 FBI v. Fazaga, 595 U.S. __ (2022)

山田峻悠 Andrus v. Texas,

第 3 回 (12 月 3 日、オンライン)

三明翔 McDonough v. Smith, 588 U.S. __ (2019)

田中優企 Dunn v. Reeves, 594 U.S. __ (2021)